

●一般型

(平成15～17年度)

熊本県南エリア

環境保全に資する陸上と海域のバイオマス
循環システムの開発

株式会社 みなまた環境テクノセンター
〒867-0068 熊本県水俣市浜松町5-98
TEL. 0966-62-0639



核となる研究機関

崇城大学、熊本大学、熊本県立大学、八代工業高等専門学校

- **主な参加研究機関** 産…(株)アストム、(株)アール・ビー・エス、櫻井精技(株)
● 学…崇城大学、熊本大学、熊本県立大学
● 官…熊本県工業技術センター、熊本県農業研究センター、熊本県水産研究センター

都市エリア産学官連携促進事業における代表的な成果

1. 畜産系排水処理用プレ実用機の開発及び実証実験

畜産系排水処理用の装置・システムを中心に、実用規模での実証実験を50バッチ実施し、事業化に向けた多くのデータを得るとともに、「新規電気透析プレ実用機」(ECO-EXPERT)の試作に成功した。畜産系排水処理用やメタン発酵消化液処理用として実用化が期待できる。

2. ラボ用卓上型試験装置の試作品開発

各種バイオマスに対応できる新規円筒状イオン交換膜ユニットを開発し、その性能評価を実証後「卓上型ラボ用多目的電気透析装置」を試作した。本装置は、処理排水用、スラリー系バイオマス用、環境中からの重金属除去、回収用等として提供できる。

事業終了後における取り組みについて

1. 共同研究事業成果の普及

共同研究事業で行ってきた、藻場再生の研究と海藻の利活用について、水俣・芦北・八代で地域ごとに継続研究を展開中。

さらに、月例調査・勉強会を開催し、受益者である漁業者に研究成果を還元すべく地元主導での勉強会等を開催している。

水俣地域では、水俣市漁協が中心となり、地元の食品加工業者と協力して海藻の商品化を行い、また、建設業者などと協力して藻場の再生素材の研究を推進している。

芦北・八代地域では、干潟の再生のためのアマモ場再生の機運が高まり、こちらもプロジェクトリーダーが中心となり調査と実働を行なっている。

技術指導により熊本県立芦北高校は「H19年度環境省地域環境保全功労者 表彰」を受賞し、これをきっかけに地域での活動を推進していく予定である。

2. 成果育成事業の事業化

「新規電気透析プレ実用機」を基本に、堆肥化施設における臭気成分の回収装置などへ応用し、県内企業と共に用途別の継続研究を行なっている。



地元との勉強会



アマモ植栽作業